

「一分間のスピーチ」

青森県 清涼寺住職 柿崎宏隆

知り合いのお寺さんの結婚式に出席した時のことです。その日は激しい暴風雨でした。

車で披露宴会場に行きましたが、外の駐車場から会場入り口のドアをくぐるまでのわずかな移動で、足袋は泥まみれです。傘はまったく役にたちません。

会場の席では、「すごい天気の日にするもんだ。」「だれだあ？日頃の行いが悪いのは（笑）」などと軽口が聞こえておりました。

なんとも落ち着かない空気の中、新郎新婦へのスピーチがはじまりました。

スピーチに立たれたのは、八十を超えるお坊さんでした。そのご老僧は会場を眩しそうにゆっくり眺めた後、新郎新婦をクッと見てこうおっしゃいました。

「お二人さん、今日は本当にいい日だねえ。お天気がそれを証明してくれた。」

会場は「ざわざわ」いたしました。そうですよね。だって外は近年類を見ない暴風雨ですから。ご老僧が続けます。

「お二人さん、そこから見えるこのお一人お一人のお顔を、よく見ておくのだよ。いいかい、ピクニックでも行きたくなるような青空の日に、お出かけするのは簡単だ。だけれども今日のような天気に出かけるのは大変だ。しかし、あなたたちの事を祝福するために、こんなにも多くの人に来て下さった。あたたかい沢山の人たちに囲まれているお二人だ。この先なにがあっても大丈夫だ。お天気がそれを教えてくれた。今日はなんていい日なのだろう。おめでとう」と言って、安心したと肯きながら壇上を降りられました。

それを境に、場の空気が一変したのを感じました。会場の多くの人の中が、一斉にスッと伸びたのがわかりました。

（そうだよな。今日は二人を祝福しに来たんだ。）

そんな当たり前のことを見失っていた自分に気づかされました。

外は暴風雨のままです。しかし思い遣りと確信に満ちたそのわずか一分間のスピーチは、会場を晴れやかな心持ちに変えたのです。

『日日是好日』どんな日であっても周囲の状況に心がとらわれることなく、惑わされることなく、その時々によって、自由自在に深く大切な所を見つめていける、私もそんな人でありたい、そう強く感じた老僧との出会いでした。